

河北新報

2月27日(金)

河北新報社

仙台市青葉区五橋1-2-28
(郵便番号 980-8860)

「東」は、未来



読者相談室

022(211)1447

総合案内(211)1111

www.kahoku.co.jp

ご購読申し込みは
0120-09-3746

仙台に銘菓あり
萩の月
www.sanzen.co.jp

住宅拡散 街に隙間

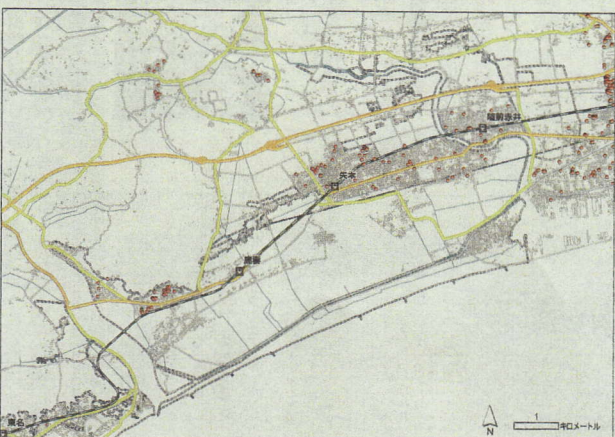
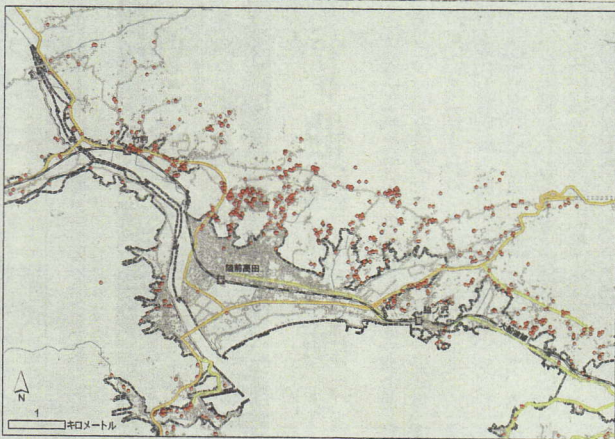
津波被災地 住民交流 希薄化も 神戸大、名城大調査で判明

た。 違いが顕著なのは、陸前高田市と東松島市(地図)。東松島市は駅や商業施設の周辺など既存宅地に新たな建物が差し込まれているのに対し、中心部が壊滅的な被害を受けた陸前高田市は高台などに住宅が拡散し、スプロール化が進む。

近藤准教授は「早期の生活再建を目指す被災者のスピードに、行政サイドの対応が追いついていない。今後、地域づくりの再構築を迫られる恐れがある」と指摘する。

民間賃貸住宅の少ない地方が被災した場合、住まいの選択肢は公営住宅などに限られる。南海トラフ巨大地震などの災害に備え、近藤准教授は住宅を自力再建する被災者への支援強化を軸にした対策を整備し、市街地形成への誘導などを検討する必要がある」と話す。

東日本大震災の津波被災地で被災者が個別に住宅を再建する動きが広がった結果、既存市街地への集積が進む地域がある一方、広範囲への住宅拡散で街が低密度化している例があることが、神戸大と名城大の共同調査で確認された。人口減少が進む被災自治体にとって低密度化は将来的な重い課題となるため、研究チームは今後の大規模災害に向けて市街地形成の誘導策などを検討する必要性を指摘している。



【地図の見方】上段は陸前高田市、下段は東松島市。点線で囲われた部分は津波浸水区域。赤い点は震災後に着工が確認された新規の建物。東松島市は既存市街地に集中するのに対し、陸前高田市は浸水境界線付近に幅広く分布する(神戸大近藤研究室、名城大柄谷研究室提供)。

かさ上げを伴う土地区画 新たな土地で住宅を再建 工された住宅など建物約2500棟の分布を特定 震災後に市町で着し、市街地の変容を調べ

きょうの紙面

再生へ 心ひとつに